

2022年度事業報告書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2016年（平成28年）	大学音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校開設
2018年（平成30年）	大学音楽学部音楽学科クラシックギター専攻をギター・マンドリン専攻に改称 短期大学部音楽科クラシックギター・コースをギター・マンドリン・コースに改称
2020年（令和2年）	短期大学部音楽科作曲コースと電子オルガン・コースを統合し、作曲デザイン・コースを開設 短期大学部音楽科ポピュラー・コースを改組し、ヴォーカルパフォーマンス・コース、ポピュラーインストゥルメント・コースを開設 附属音楽院さくら夙川校閉校
2021年（令和3年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科にヴォーカルパフォーマンス専攻、ポピュラーインストゥルメント専攻を開設
2022年（令和4年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価受審の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定 大阪音楽大学音楽学部音楽学科にミュージックビジネス専攻を開設

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数10～15人 理事の現員数10人

役職名	氏名	執務	就任(退任)年月日	主な現職・前職等
理事長	中村 孝義	常時執務	2001年9月7日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
常任理事	岡野 幸義	非常勤	2012年10月1日	公益財団法人 太平洋人材交流センター 理事長
常任理事	十川 輝明	常時執務	2010年4月1日	(住友生命社会福祉事業団元常務理事)
常任理事	本山 秀毅	常時執務	2018年4月1日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部学長
常任理事	福井 慎吾	常時執務	2016年5月29日	(大阪音楽大学前事務局長)
理事	北野 徹*	非常勤	2010年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
理事	熊谷 美紀*	常時執務	2022年4月1日	大阪音楽大学副学長
理事	角 和夫*	非常勤	2019年12月1日	阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO

理事	永井 譲*	非常勤	1982 年 6 月 29 日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授
理事	森本 徹*	常時執務	2022 年 6 月 25 日	大阪音楽大学事務局次長
理事	田中 勉*	常時執務	(2022 年 6 月 24 日退任)	大阪音楽大学教授

監 事

監事定数 2人

監事の現員数2人

氏名	執務	就任年月日	主な現職・前職等
水漣 征矢雄*	非常勤	2018 年 6 月 30 日	(学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授)
青山 成夫*	非常勤	2021 年 7 月 1 日	((公財)住友生命健康財団元常務理事)

評議員

評議員定数 21～31人

評議員の現員数22人

氏名	選任条項	就任(退任)年月日	主な現職・前職等(在任時)
荒田 祐子	法人職員	(2022 年 6 月 29 日退任)	大阪音楽大学教授
石橋 栄実	法人職員	2020 年 5 月 29 日	大阪音楽大学教授・付属音楽院長
井上 建夫	学識経験者	2018 年 6 月 30 日	公益財団法人守山市文化体育振興事業団副理事長
江良 成人	法人職員	2022 年 6 月 30 日	大阪音楽大学調査役／前連携・演奏事務部門長
大澤 弘之	卒業者	2022 年 12 月 22 日	大阪成蹊大学教授、京都教育大学名誉教授
大田 美佐子	学識経験者	2022 年 6 月 1 日	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授
岡原 慎也	法人職員	(2022 年 5 月 29 日退任)	大阪音楽大学教授
小畑 有子	法人職員	2010 年 6 月 30 日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
金田 忠行	学識経験者	(2022 年 6 月 29 日退任)	サンスター株式会社 相談役
北野 徹	卒業者	2010 年 6 月 30 日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
久保 洋子	法人職員	2022 年 6 月 25 日	大阪音楽大学教授
高 昌帥	法人職員	2021 年 9 月 20 日	大阪音楽大学短期大学部副学長
児玉 祐子	卒業者	2021 年 4 月 1 日	公益財団法人関西二期会理事
小林 義和	卒業者	(2022 年 6 月 29 日退任)	尼崎市教育委員会
駒井 肇	法人職員	2020 年 5 月 31 日	大阪音楽大学短期大学部教授
崎元 利樹	学識経験者	2022 年 6 月 30 日	公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会理事長
崎山 和英	法人職員	(2022 年 6 月 29 日退任)	大阪音楽大学事務局次長
芝 道雄	学識経験者	2018 年 6 月 30 日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト
下村 義和	学識経験者	2020 年 1 月 30 日	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田中 勉	法人職員	(2022 年 6 月 29 日退任)	大阪音楽大学教授

田辺 恭久	学識経験者	2020年4月1日	住友生命保険相互会社顧問
鳥居 知行	法人職員	2022年5月30日	大阪音楽大学教授
西山 健次	卒業者	(2022年12月21日退任)	大阪府立夕陽丘高等学校非常勤講師(音楽科)
林 紀夫	学識経験者	2022年6月30日	関西労災病院病院長、大阪大学名誉教授
本郷 卓	卒業者	2022年6月30日	滝川第二中学校・高等学校校長
松尾 徹	学識経験者	2013年12月1日	非破壊検査株式会社特別顧問
松原 千代繁	学識経験者	(2022年6月29日退任)	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団 相談役
水谷 雅男	卒業者	2018年6月30日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>副会長
森本 徹	法人職員	2014年6月1日	大阪音楽大学事務局次長
森本 友紀	法人職員	2022年6月30日	大阪音楽大学教授

役員賠償責任保険契約の概要

- ・被保険者：役員（理事・監事）及び評議員
- ・補償内容：役員及び評議員（被保険者）の行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が負担する法律上の賠償金等を補償する。
- ・保険期間：1年間

責任限定契約の内容の概要

- ・私立学校法第44条の5が準用する一般社団・財団法人法第115条に定める及び本法人寄附行為に基づき、理事5人*及び監事2人*との間で、私立学校法第44条の2第1項の最低責任限度額をもって責任の上限とする旨の責任限定契約を締結している。

学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	本山 秀毅
大阪音楽大学短期大学部学長	本山 秀毅
大阪音楽大学附属音楽幼稚園長	小畑 有子

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2022年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	入学者数	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽学科	220人	244人	10人	900人	850人	0.94
計	220人	244人	10人	900人	850人	0.94

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
作曲専攻	1人	0人	0人	0.00
声楽専攻	5人	5人	5人	1.00
器楽専攻	14人	9人	10人	0.71
計	20人	14人	15人	0.75

●大阪音楽大学 大学院

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽研究科	作曲専攻	2人	1人	4人	1人	0.25
	声楽専攻	4人	3人	8人	10人	1.25
	器楽専攻	7人	11人	14人	27人	1.93
計		13人	15人	26人	38人	1.46

●大阪音楽大学短期大学部

学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽科	100人	80人	200人	187人	0.94
計	100人	80人	200人	187人	0.94

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
音楽専攻	15人	9人	9人	0.60

●大阪音楽大学附属音楽幼稚園

学年	定員	在園児数
3歳児3学級	105人	88人
4歳児3学級	105人	90人
5歳児3学級	105人	94人
計	315人	272人

Ⅱ 事業の概要

本法人は、「中期事業計画（2021年度～2025年度）」を策定し、その重点推進項目を踏まえ、それぞれの領域において必要な目標を設定している。2022年度においては、その目標の達成に向けて学内の諸事業を計画、立案し、実践の活性化を図った。

中期事業計画における重点推進項目は以下のとおり。

①新たな成長戦略による収入確保

- ・新時代のニーズに対応した事業運営、ニューノーマル時代の学生募集活動

②事業の抜本的見直しによる支出削減

- ・慣例やしがらみにとらわれず事業の在り方を見直す

③学修者本位の教育への転換

- ・時代に対応した教育体系・手法の確立、教育の質・学生サービスの向上

④次世代を担う人材育成

- ・本学の発展に寄与する将来を担う教員・職員の育成

⑤財務体質の健全化

- ・教育活動資金収支・資産運用・資金繰りの適正化

⑥ガバナンス強化と社会に開かれた大学

- ・各機能の実質・適正化、危機管理の強化計画、外部連携強化

新型コロナウイルス感染拡大が始まって3年目となったが、早期からの感染対策、対面による授業を展開してきたこともあり、演奏会などの各種学事行事やイベントも一部制限はあるもののコロナ禍以前に近い形で概ね実施することができた。

また、大学音楽学部の新専攻「ミュージックビジネス専攻」を開設し、46人の一期生が入学した。ミュージッククリエーション専攻、ミュージックコミュニケーション専攻から続く音楽大学における新しい学びの構築に弾みをつけた。このスタートに合わせ、キャリア支援センターでは、首都圏の音楽系企業とのつながりを強化していくため、東京ブランチに専任職員を配置するなど体制強化を行った。さらに首都圏の音楽系企業への就職に対する関心を高めるため、企業見学ツアーを実施、多くの学生が参加し、意義のある取り組みとなった。

これまでの演奏・実技系を中心とした学びに加え、エンターテインメントとしての音楽の学びが融合していく中で、今後の本学の成長、発展に向け、新たな考え方や変化への対応を図っていく。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

音楽研究科に音楽学研究室1人、声楽研究室10人、ピアノ研究室14人、管弦打研究室13人の計38人が在籍し、各研究室による修士演奏、修士論文の審査と口述試験の結果、声楽6人、ピアノ7人、管弦打8人の計21人が修了した。11月22日に大学院定期演奏会をザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し、学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。2023年度入学者選抜については、18人が合格した。

<大学>

音楽学部音楽学科に850人が在籍し、196人が（うち4人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞4人、優秀賞12人、音楽・社会活動賞1人を表彰した。また、音楽・エンターテインメント業界で活躍できる人材の育成を目的とするミュージックビジネス専攻を新たに開設した。

新型コロナ感染拡大防止対策を徹底した上で、ごく一部の科目を除き授業は対面で実施し、卒業式も通常通り開催した。

<大学音楽専攻科>

音楽専攻科に声楽専攻5人、器楽専攻10人の計15人（うち1人は休学、2023年3月31日退学）が在籍し、13人が修了した。授業「音楽実践演習」の一環として、学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」をLIC はびきの（10月15日）、西宮市フレンテホール（11月12日）の2会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。LIC はびきのでの公演では曲目を全てモーツァルトの作品とし、オペラアリアやピアノソロ曲、交響曲（2台ピアノ8手）など様々な作品を取り上げ、モーツァルトの音楽の魅力が十分に堪能できる内容の公演とな

った。西宮市フレンテホールでの公演では、観客対象を幼児・児童の親子連れとし、ミュージカル的な演目を取り上げ、これらの観客が十分に楽しめる内容の公演となり、ホール管理者からも高い評価を得ることができた。

<短大>

音楽科に 187 人が在籍し、86 人が（うち 9 人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞 4 人、優秀賞 7 人を表彰した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、ごく一部の科目を除き授業は対面で実施し、卒業式も 3 年ぶりに通常通り開催した。

<短大専攻科>

短大専攻科に作曲デザイン・コース 3 人、管楽器コース 2 人、ジャズ・コース 1 人、ヴォーカルパフォーマンス・コース 1 人、ミュージカル・コース 2 人が在籍し、9 人が修了した。在籍するすべての学生が自ら企画・出演する恒例の「コンサート・プロデュース」を 7 月 13 日にミレニアムホールで実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策など、依然として練習やホール使用に関して制約が残る中での開催であったが、レベルの高い催しとなった。

<キャリア関連>

入学式後に保護者対象のキャリア支援に関するガイダンスを実施し進路サポートの内容や、近年の進路・就職実績の説明を行った。大学 3 年次生、短大 1 年次生を対象に You Tube 配信での進路ガイダンスを実施した。また、企業就職志望者対象に MIRAI セミナーを 14 回実施（番外編 3 回含む）、自己分析・エントリーシート対策や SPI 性格検査等を提供した（参加延べ 141 人）。

これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室（ヤマハ、カワイ、三木楽器等）の講師採用説明会や公立学校教員採用（大阪府、大阪市、堺市、豊能地区、神戸市）説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊や合同会社ユー・エス・ジェイ、神戸市職員他の採用説明会を実施した。また、卒業生との懇談会（キャリアトーク）の中で多様な進路を在籍生に提示することができた。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催しており、韓国語講座、保育士試験対策、教員採用試験対策として筆記試験及び模擬面接も行った。音楽教室講師を目指す学生を対象として、ヤマハ音楽指導及び演奏グレード 5 級取得準備講座、音楽教室起業セミナーを開催した。

また、全保護者対象に本学のキャリア支援の取り組みに関するガイダンスと、社会で活躍する卒業生との懇談を実施した。

キャリア支援センターでは、学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学 3 年次生（5～6 月）・短大 1 年次生（9～10 月）を対象にリモート面談も交え実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。キャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て年 1 回春期に実施し、マナー等の事前指導を行った上で 15 の企業・団体に延べ 42 人を派遣した。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、リクナビ、マイナビ等のセミナーを開催し情報提供を行った。

学長主導の教育改革

●要旨

従来から建学の精神や三つのポリシーに基づき教育課程のあり方を検討してきた取り組みに加えて、2020 年以降コロナ禍の中で必要性が問われた事項を加えて、さらなる教育改革を推進した。

●成果及び達成度

過年度より実施している教員評価制度は、各教員の教育活動及び教育能力等について、自己評価に基づいて教育主任等が点検確認した後、面談によって新たな目標水準を示すものであり、この制度を通して教育力の向上と人材育成に取り組んでいる。

また多様な学生を受け入れることにより生じる新たな課題について、リメディアル教育のシステムや学生のメン

タル面をケアする体制の充実により学生に寄り添うための丁寧な取り組みを行っている。

卒業生の進路について一般企業への就職率の増加を受けてさらに充実したキャリア教育の必要性が問われている。キャリア事務部門と中心としたサポート体制に加えて、音楽専門教育との相乗効果を図りながら音楽大学の特質を生かしたキャリア教育を展開している。

先行する「演奏を伴わない領域」としてのミュージッククリエーション、ミュージックコミュニケーション専攻に加えて、2022年度のミュージックビジネス専攻の開設は、従来の音楽大学の既成概念を打ち破る将来を見据えた内容を包摂するものである。

●今後の展望

大学としての具体的な方針は以下のとおりとし、引き続き教育改革を推進する。

・目指す方向性

本学が継承してきた、音楽に対する見識や技術を高めること、世の中に認められる優秀な学生を育成することは堅固に維持しつつ、多様な学生に対応する基礎力の向上、学習支援の充実に努める。

・存在意義

社会に対する存在意義として「ちから強い音楽人」を育成、輩出することを掲げる。高い音楽性や技術はもとより、音楽に対峙する中で得られる忍耐力、集中力、創造力、協調性などを持つ人材を育成することに努める。

・在り方

新規に開設された専攻や開設予定の専攻が、伝統的な音楽教育から得られる成果と呼応、刺激しあうことにより、他の音楽専門大学には見ることのできない独自の成果を創り出すことが可能となり、その方向性が本学の将来の在り方を示すことになる。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

前年度に続き、「阪急宝塚線ミュージック駅伝 MOT!」の中心的な演奏会である「ドリームコーラスコンサート」やフリンジイベントである「みんなのおと in 石橋商店街」等を開催した。また、豊中市文化芸術センターにおける有料コンサートとして「極〜知っているのに知らないリコーダーの魅力〜」を実施した。その他、同センターのロビーコンサート、「とよなか ARTS ワゴン」、「こどもの本の森中之島」との連携コンサート等を企画立案する他、アートエリア B1 のイベントを 10 回にわたって担当した。さらに、「オープンマイクパーク@庄内」を野田中央公園等で実施した。

●成果及び達成度

専攻として、11 月 18 日の「邦楽演奏会」、2 月 11 日・12 日の「学生オペラ」、3 月 11 日～13 日の「ミュージカル・コース公演」の舞台マネジメントに携わった。また、国家資格である舞台機構調整技能士 2 級に 2 人、3 級に 16 人が合格した。

●今後の展望

新型コロナウイルスによる規制が緩和され、様々なイベントへの参加が活性化すると同時に、ミュージックコミュニケーション専攻をリニューアルし名称を変更する予定である地域創生ミュージックマネジメント専攻の特色を一部取り入れた新しい視点での活動を期待している。

ポピュラー・コース特別講義

●要旨

シンガーソングライター、作曲家、作詞家、編曲家、音楽プロデューサーである AILI 氏による特別講義を 2 日間・4 コマ実施し、主として以下のテーマや質問事項に沿った詳しい解説を行った。

- ・DTMの可能性と実際の現場
- ・事前に準備されたコード進行によるループからの音楽制作
- ・プロフェッショナルな音源製作
- ・卒業後に音楽活動を行う上で必要とされるスキルとマインド
- ・アーティストの紹介

●成果及び達成度

パソコンと最低限の機材だけで十分に楽曲制作ができる体験を通じてDTMの可能性が広がった。また、学生たちが楽曲をさらに向上させる方法を模索することで、日々のレッスンや授業で学ぶべきことが明確になった。

●今後の展望

今後も学生が音楽シーンの最前線で活躍するミュージシャンからの指導を継続的に受けることにより、楽曲のクオリティを大きく向上させることを期待している。

eラーニングの導入

●要旨

昨年度に続き、総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者を対象に入学前教育として英語のeラーニングを実施した。この教材では「基礎からの英文法」「初級」「中級」「上級」の中から入学予定者が、自己申告により1つのコースを選択することとしており、今年度は「基礎からの英文法」と「初級」を選択する者が全体の70パーセントを超える結果となった。

●成果及び達成度

大学、短大のディプロマ・ポリシーでは、外国語の運用能力に基づき、異文化や文化の多様性を理解する姿勢を身につけることが入学後の目標となっているが、入学予定者はこのeラーニングに対して専門教育科目と同等の関心を示していないと思われ、教材全体の半分程度まで学習を進める者は全体の25パーセントを下回る結果となった。

●今後の展望

eラーニング教材の全てを学習することを前提とするのではなく、高等学校の教員に意見を聞く等の方法により、教材の一部を活用する方法を今後検討する。また、入学後の英語の授業や初年次教育との接続について、学内で協議する。

作曲デザイン・コース「プリプロ・スタディ」

●要旨

短大作曲デザイン・コースの2年次生が、教員や助手の支援を受けながら就職活動や楽曲応募へ向けた制作に取り組む為の課外教育活動として実施している。授業課題の対応は対象外とし、あくまで将来へ向けた活動における楽曲アイデアの昇華や、制作中の作品のブラッシュアップ、レコーディングサポート、音楽活動へのカウセリングなどに取り組むことを想定して昨年度より事業化した。初年度における実際の稼働コマ数は、当初想定2割程度に止まったが、今年度は学生数が増加し、事例を具体的に示す事で稼働率は5割に上昇した。

●成果及び達成度

コースの学生にとって、自分の作品を世に出し、採用されるまでのプロセスを体験する貴重な学びの場となった。本事業は学生に対する実技の現場指導だけではなく、作品を応募する先の情報も確保・提供しており、学生に作品応募後の報告を義務付けることにより、学生の活動の可視化につながった。また、企業との関係を深めることにより、コースから学生の楽曲を直接紹介するパイプと仕組みを構築した。

2022年度プリプロ・スタディ受賞成果

- ・第2回ISAC国際コンテスト特別賞

- ・サウンドハウスコンテスト「音魂祭」楽曲部門特別賞
- ・サウンドハウスコンテスト「音魂祭」シンガー部門優秀賞（TUNE CORE にて配信）
- ・サウンドハウスコンテスト「音魂祭」シンガー部門特別賞
- ・マッチングオーディション（ソニー）「High Five」クリエイター部門ファイナリスト（You Tube 配信予定）
- ・宝塚歌劇団音楽助手（最終審査中）

●今後の展望

企業への開拓と募集情報の案件数を増やすことで、学生への需要が生まれ稼働コマ数が増える（2023 年度の学生数増加により対象・内容も拡大する予定）→ 学生作品の質が上がる → コースと企業との連携 → 採用率が上がるという、好循環が実現することを期待している。また、作曲デザイン・コースにおける 3 つのクラスに共通する取り組みとして、今後、コンペやキャリア形成に活発に活用されることを期待しており、2023 年度には作曲家事務所の代表取締役による「コンペの勝ち方」の開催を予定している。

プロダクション「大音ラボ」の運営

●要旨

学生の実践的な学びや経験の場として、また大学と社会をつなぐものとして、ミュージッククリエーション専攻が主体となり、渡邊崇教員を中心にプロダクションを運営し、助手を運営の中核として事業を展開した。この事業は、学生が将来音楽で働くための実践的な活動の場を提供することを主目的とし、働くことの一面を経験することで学生自身がキャリア形成への関心を深め、卒業後のイメージの具体化に寄与することも目的に含まれる。

また、プロジェクトとして、企業・機関からの依頼による音楽制作など収支バランスを考慮した事業展開を行った。

●成果及び達成度

学生の学外プロジェクトとして以下の 13 プロジェクトを実施した。参加した学生、卒業生の人数は以下のとおり（教員・学外業者等は除く）である。

〔ミュージッククリエーション専攻プロジェクト〕 音楽制作・ライブ等

- ・「KANSAI いこいこ ch」音楽制作（学生 4 人）
- ・KDDI「ずっと、もっと、つなぐぞ au」（学生 1 人）
- ・三菱電機 100 周年記念映像 音楽制作（学生・演奏員・卒業生 30 人）
- ・大日工業 CM 音楽・サウンドロゴ制作（学生 4 人・卒業生 1 人）
- ・ブラネタリウム楽曲 音楽配信（学生 3 人・卒業生 3 人）
- ・「ミコライブ×大音ラボ」楽曲コンペ（学生 8 人・卒業生 1 人）
- ・藤枝市 CM コンペ（学生 3 人・卒業生 2 人）
- ・オガッタ 楽器レコーディング（学生 1 人・卒業生 2 人）
- ・第 1 弾 DTM セミナー（ラボスタッフ 1 人）
- ・「愛にイナズマ」劇伴レコーディング（卒業生・演奏員 25 人）
- ・ジョイプラザ CM（学生 3 人・卒業生 1 人）
- ・第 2 弾 DTM セミナー（ラボスタッフ 1 人）
- ・「HOT 犬索」サウンドロゴ制作費（学生 2 人・卒業生 1 人）

上記以外にもミュージッククリエーション専攻では、「プロモフェスシンポジウム」にて 6 人の卒業生が登壇（対面 4 人、オンライン 2 人）し、在学生と交流の機会を設けた。

〔著作権管理〕

㈱日音より印税の支払いがあり、著作者の学生及び卒業生へ分配を行った。

〔音楽配信事業〕

Daion Lab をレーベルとして 2019 年 5 月より音楽配信を開始している。

教員採用試験実技・面接対策講座

●要旨

公立学校教員採用試験（一次・二次）の実技試験と面接対策を強化する。「集団討論」「集団面接」「模擬授業」等の面接対策、「弾き歌い」「アルトリコーダー」「新曲視奏」等の実技対策は学生からの要望も多い。毎月 1～2 コマの定期的な対策講座に加え、7 月・8 月の直前対策を本学教員もしくは外部の講師が指導する。

●成果及び達成度

卒業生との座談会を 4 月に開催し、教育実習や採用試験の面接で役立つ「音楽授業における ICT 活用術」について理解を深めた。

各自治体の教員採用試験一次試験の面接対策として、元中学校校長の中北氏による指導を前年度 3 月と 6 月に計 2 回実施し、11 人の学生が参加した。

7 月中旬から 9 月上旬までの期間、「アルトリコーダー」「弾き歌い」「新曲視奏」の実技対策と模擬授業などの面接対策を実施し、14 人の学生が参加、2 人が現役合格することができた（大阪府 1 人、兵庫県 1 人）。

教職の橋本龍雄教員、園田葉子教員、長谷川真由教員、片岡潤子教員、村田佳生教員が指導にあたり、自治体別に模擬授業、リコーダー指導、ピアノ弾き歌い指導、面接の対策を対面方式で実施した（12 日間で約 34 時間）。

10 月上旬には私立学校の教員採用試験における面接指導を実施し、1 人（大学院生）が滝川第二中学校・高等学校に採用された。

●今後の展望

教員の定年年齢が 65 歳まで段階的に引き上げられることが影響し、特に関西圏では、数年間は受験倍率が上がることが懸念される。卒業生との交流や、教職部会・教職支援室・学務事務部門との連携を活かして、継続的に実技・面接試験対策を講じ、一次試験合格者及び現役合格者の増加につながるよう支援する。

【2】国際交流

2022 年度後期における交換留学生として、提携校であるドイツのフォルクヴァング芸術大学、英国の王立ウェールズ音楽演劇大学へそれぞれ 1 人の送り出しを 4 月に決定していたが、前者については、提携校側の審査により不合格となったことから、英国の提携校へ 2 人を送り出すこととなった。また、10 月から 2 か月間、この王立ウェールズ音楽演劇大学からテューバを専攻楽器とする学生を受け入れた。

なお、今年度は提携に関わる文書の整備・見直しに着手しており、次年度における本学学生の送り出しが決定したドイツのデトモルト音楽大学とはその更新を合意した他、ミラノ・ヴェルディ音楽院とは提携の締結に向けて協議を継続している。その一方で、長期間にわたって交換留学の実績がなかった上海音楽院、デポール大学の 2 校に関しては、本学の提携校から除外することを決定した。

【3】学生生活支援・福利厚生

学生相談室を利用した学生は延べ 472 人であり、第 7 波、第 8 波により新型コロナウイルスの感染者数が増加したにもかかわらず、一定数の学生が日常的にこの場所を利用していることが明らかになった。また、この相談室は授業において支援を必要とする学生が、学内の「居場所」として利用する事例も少なくないことから、日頃より心身をリフレッシュできる環境づくりに努めている。なお、今年度は障害者差別解消法が改正されて 1 年が経過したこともあり、常駐するインテーカーに対して学生の修学上の支援について助言を求める機会が増えた。

奨学金に関しては、本学独自の制度である「大阪音楽大学奨学事業財団奨学金」の 2022 年度新規貸与者数は、大

学 6 人、大学院 1 人、短大 3 人であり、合計 41 人となった。これに加えて、3 月には緊急の対応として大学 2 人、短大 1 人に特別奨学金を貸与した。

【4】教員の研究活動

研究委員会を 11 回開催した。前年度 7 月に専任教員・専任嘱託教員を対象に無記名で行った「研究活動の活性化」のためのアンケート結果を受けて、再度アンケートを実施することを検討したが、今年度は実施しないこととした。コロナ禍が継続する中で、研究助成の第 2 区分に該当する学術研究、芸術研究、研究成果公開について申請は 0 件であった。その一方で『大阪音楽大学研究紀要第六十一号』には、投稿された 4 本の原稿の査読を行った上で、論文 1 篇研究及びノート 2 篇の掲載を決定し、3 月末にホームページに公開した。中期事業計画（2021～2025 年度）に基づき、学術機関リポジトリの構築に向けて、コンテンツ及びシステムの検討を行った。科学研究費の採択に関しては、新規に非常勤教員が申請した 1 件（基盤研究 C）が採択された。その他、専任教員 2 人、専任嘱託教員 1 人と非常勤教員 2 人が過年度に採択されたテーマによる研究を継続している。

研究活動に関わる不正行為のうち、「ねつ造」「改ざん」「盗用」についての研究倫理教育を 10 月教授会のほか、必要に応じて実施した。公的研究費に関わる不正行為防止の啓発活動として、(1) 4 月に学長室会議及び常任理事会、5 月に教授会での実施、(2) ホームページへのポスターの掲示、(3) 10 月に学内でのポスターの掲示、を行った。さらに不正行為防止の一環として、学内規程に基づくすべての研究出張について、出張目的が研究の内容・規程に即したものが事前に精査し、事後の報告を求めるための規程変更を行った。

文科省からの通知を受けて、研究者登録の対象者及び登録者の義務についてホームページに掲示した。それに加えて、研究倫理及び研究インテグリティについて学内の体制を見直し、次年度以降、体制の整備を行うこととした。

FD・SD活動の充実

●要旨

FD 総括委員会は予定通り 10 回開催し、2022 年度活動案に従い、FD フォーラムの開催、授業改善計画書、教員相互の授業見学、成績分布状況の把握、新任教員の研修制度、FD 講習会への参加、アクティブラーニングの研究、教学 IR 分科会との連携について検討を重ねた。

●成果及び達成度

各部会から提出された 2021 年度 FD 活動報告書を基にした FD フォーラムは 6 月と 7 月の教授会終了後に実施した。授業改善計画書の作成・発行を予定通り行った。教員相互の授業見学は 38 件で 14 名の教員が行った。成績分布状況の把握は、2021 年度成績分布状況データを基に、現状把握と改善策を部会毎にまとめた「成績分布状況の検証結果」の冊子を作成し、全専任教員に配付した。また、これを大学・短大運営会議でも取り上げ、学修成果の点検・評価及び内部質保証の認識の共有に努めた。外部講師による FD 研修会は、「キャンパスハラスメント防止研修」をテーマとして 2023 年 2 月に実施した。今回は対面とオンライン（Zoom）の同時開催とし、当日会場に来られない教職員の利便性を図った。参加者は、対面 29 人、オンライン（Zoom）26 人の合わせて 55 人が受講した。

●今後の展望

各部会で実施した FD 活動の発表と質疑応答を行う FD フォーラムは、書面だけでは分からないさまざまな活動を知る機会となるため、今後も報告書の作成と共に開催する。成績分布状況の把握・検証は、引き続き行い成績評価方法等の改善に繋げる。新任教員の研修制度については、専任教員の研修制度について検討する。アクティブラーニングの研究は、専攻・コースにかかわらずアクティブラーニングを授業に取り入れるために、本学の実践例を全教員が共有し、各授業に合った方法を研究し導入に取り組む。FD 研修会は非常勤教員も含め広く認知されてきたがさらに参加を促すための方策を検討する。

【5】自己点検・評価体制

本学の自己点検・評価は、自己点検・評価統括委員会を中心として大学・短大の各教育課程における各種の運営会議や運営委員会において不断に実施している。具体的には、成績分布状況の検証結果の検討と改善方策の策定、学生満足度調査の集計結果分析とその改善、アドミッションポリシーに基づく各種選抜の点検・確認、授業アンケートに基づき全専任教員が執筆する授業改善計画書の検討、アセスメント・ポリシーに基づく学修成果の点検・評価の実施等である。自己点検・評価の結果は、教育研究等の向上に向けた取り組みに反映しており、自己点検・評価統括委員会を中心とする内部質保証のシステムが機能している。

自己点検・評価

●要旨

日本高等教育評価機構による大学・短大の2021年度機関別認証評価受審において「改善を要する点」と指摘された事項について、自己点検・評価統括委員会において議論を行い、必要に応じて大学・短大運営会議においても検討する。

●成果及び達成度

「改善を要する点」については自己点検・評価統括委員会において検討を重ね、大学・短大それぞれの将来計画について報告した。また、自己点検評価活動（特に内部質保証）の実質化については、大学・短大特定議題運営会議において検討したが、今後も教学IR分科会との連携を一層強化し継続する必要がある。

●今後の展望

来年度以降の自己点検評価体制については、さらに教員の参加を促し組織の再構築を図り、自己点検評価活動（特に内部質保証）の実質化をさらに推し進める。

学生による授業アンケート

●要旨

全学的な自己点検・評価活動の一つとして、「学生による授業アンケート」を実施した。これまで対面授業においては紙媒体によるアンケートを行ってきたが、今年度より前期・後期ともにポータルシステムを利用したウェブアンケートを実施した。アンケートは回収率を高めるため教員の指示のもとに授業時間内に行った。

●成果及び達成度

大学・短大の全教育課程における前期の授業アンケートの回答率は62.1パーセント、後期は51.5パーセントであった。昨年度前期は遠隔授業が行われた関係でポータルシステムを利用した授業アンケートを行ったが、その回収率は27.9パーセントだった。今回、授業アンケートを授業時間内に行うことにより回収率が高まり、紙媒体での実施と変わらない数値になった。

●今後の展望

ポータルシステムを利用することで、学生にとっては実質記名式のアンケートとなるため、自由記述も責任を持って書くことが求められる。しかし、学生にとっては授業内の限られた時間で記述することは難しく、全体的に自由記述が少ない傾向が見られるので今後改善方を検討する。

授業改善計画書

●要旨

昨年度後期の「学生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）と一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書は講義・演習科目については教育課程別に、レッスン科目については教員別にまとめてCD-Rに集成し、

同計画書を執筆した全教員に配付した。

●成果及び達成度

授業改善計画書の目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることによって、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書を CD-R として集成し、各教員に配付することによって、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業評価アンケート」に対するフィードバックとして、学生・教職員が自由に閲覧できるように、付属図書館、学生支援センター、教職員集會室等に配備した。

●今後の展望

今後も前年度後期の「学生による授業アンケート」の集計結果を基にした授業改善計画書の作成を継続する。現在、全専任教員に授業改善計画書の作成を義務付けているが、非常勤教員にも作成を促し、より充実したものにする。

【6】音楽メディアセンター 付属図書館

2022年度における本学学生の図書館利用は、新型コロナウイルスによる利用者の減少が継続していた前年度と比較した場合、20パーセント以上の向上が認められるが、今後も新しい感染症対策を遵守しつつ、利用率をさらに向上させる取り組みを検討している。今年度は特にアンケート調査の結果に基づき、小説を主とする文庫本を購入してカウンターに展示したところ、学生からの反応が良く、繰り返し貸し出されることとなった。一方、為替レートの影響等で購入価格が急騰した外国雑誌の一部について研究委員会に報告した上で購入を中止した。また、OPAC に関しては、学生・教職員がログインすることにより、図書2週間、楽譜1週間の貸出延長を可能とする機能の追加を行った。

これらの活動を経て、2023年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約114,900点、視聴覚資料は約54,700点となった。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

楽器資料館移転

●要旨

来年度からの再開に向けて、次の形で移転、展示することを決定し、準備を行った。

- ・西洋楽器・和楽器展示室（K 号館 3 階フロア、一部 2 階図書館入口前）
- ・民族楽器展示室（D 号館 401 教室）

●成果及び達成度

新たな展示場所の整備を行った上で、多数の楽器資料を適切に移設した。また、これまでの専門スタッフによる案内・解説から教員による研究の上での授業実施など、新たな運用方針を決定した。

●今後の展望

授業での利用形態をはじめ、学生や外部への公開方法など、実状に応じた新しい楽器資料館の在り方を模索していく。

【8】付属音楽幼稚園

新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら保育を行った。秋以降の園行事（運動会、卒園式等）に関しては、政府の方針に沿った感染予防対策を行いつつ、可能なものについては規模をコロナ禍以前の状況に近づけながら実施した。新型コロナウイルス感染症が幼児にも蔓延し、園内でも複数人の感染者、濃厚接触者が発生したが、

前年度以上に予防対策を見直し、学級閉鎖をすることなく学年末を迎えることができた。

在園児は5月1日付で272人（3歳児3クラス88人、4歳児3クラス90人、5歳児3クラス94人）、3月には5歳児92人が卒園した。

2歳児親子教室「りんごクラブ」は、前期（6月～9月）3クラス（各クラス定員30組）の募集に70組の申込があり、後期（11月～1月）も同様に2クラス（各クラス定員30組）の募集に50組の申込があった。なお、2023年度入園児（3歳児）71人中49人が「りんごクラブ」受講者であった。

音楽教室「クレフ」（希望者対象のピアノ・ヴァイオリン・マリンバの3種の課外レッスン）は、6月1日時点で対象園児の44パーセントに当たる82人が受講した。

少人数制の音楽指導「Poco」

●要旨

「みんなで楽しむ音楽」を中心とした保育を目的として、年中児・年長児がグループに分かれ、専門講師と共にキーボード・ヴァイオリン・打楽器をローテーションして体験する。昨年度は感染予防（空間確保）のため保育室において実施したが、今年度は感染防止対策の一環として空気除菌器の導入や定期的な換気を行い、従来通りの1クラス3～4人での指導をレッスン室において実施した。

●成果及び達成度

Pocoではヴァイオリン、キーボード、マリンバ（打楽器）の3種類を使用した。園児はその年齢や環境による理由からそれらの楽器に日常的に触れる機会は少なく、習い事として経験する子どもに関してもそれらの1種類であることがほとんどであるため、保育の中で経験できることは保護者にとっても満足のいく活動の1つと言える。

活動を通して技術の向上を目的とするのではなく、友だちと共に行う楽しさを感じたり、講師の援助により「できた！」という体験を通して達成感を味わうことをねらいとした。幼児期のそのような体験の積み重ねが個々の自信の素地となるため様々な活動に活かすことができた。また、2022年度は、本来の少人数制に戻すことができたことで、保護者が参観する日を設けることができた。

●今後の展望

音楽幼稚園の特色となる事業であるため、広報活動を展開し幅広くその活動を告知する機会をもつことを検討する。今後は社会状況を見ながら、園児が楽しむだけでなく、楽器に触れる様子を観たり、楽器演奏を聴いたりするような保護者のための参観やイベント等の機会を再開していきたいと考える。これにより、入園志望や課外事業である音楽教室「クレフ」の受講生の増加につながるものとする。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

大学及び短大で総合型、学校推薦型、一般、後期総合型の4種類の入学者選抜を、また大学院、大学音楽専攻科、大学3年次編入、短大専攻科でもそれぞれ入学者選抜を実施した。大学総合型選抜、短大総合型選抜、短大学校推薦型選抜、短大専攻科入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、別日程での追試験を実施した。その他の入学者選抜については特に問題なく無事遂行できた。学生募集広報関連として、オープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、ワークショップなどの各種イベントを年間を通して開催した。

オープンキャンパスの開催

●要旨

充実した教育環境と魅力を伝える機会として、7月・10月・3月の3回のオープンキャンパスを実施した。新型

コロナウイルス感染症対策を万全に施し、対面方式で実施した。

オープンキャンパスにおいて専攻・コース別のイベント及び入試センタースタッフによる個別相談会の他、学生コンシェルジュによるキャンパス・ツアーも行った。

●成果及び達成度

7月には222件（322人）、10月には125件（219人）、3月には142件（256人）の参加者があった。予約制を採用していることもあり、参加者の熱意もより高く感じられた。またキャンパス・ツアーや専攻・コースのイベントに在学生を配置することで、在学生の様子を身近に感じる機会となり、本学への興味につながった。オープンキャンパスへの参加がきっかけとなり、トライアルレッスンやその他専攻・コースイベントに参加する人も見られ、受験を目指す高校生にとって本学を知る最良の機会となっている。

●今後の展望

参加者の増加を目指し、さらなる受験生の確保に向けた貴重な機会とするため、「イベント内容の充実」を今後の重点課題とする。新型コロナウイルスの感染対策の緩和を受けて、参加者が本学の教育を体験できる内容を多く取り入れ、充実した教育環境や取り組みの認知度を高める機会にする。また例年同様、資料請求者への資料送付、高校への周知、高等学校教員への個別案内、SNSでの発信によって資料請求者以外への周知を高める。

専攻・コースイベント

●要旨

専攻・コース別にイベントや出張授業等の学生募集広報活動を展開しており、今年度は新たに①「作曲デザイン・コース受験生獲得のための広報強化」と②「ヴォーカルパフォーマンスライブ」を追加した。①については、「ゲーム音楽分野」の志願者獲得に向け、高校、楽器店等への訪問と、「ゲーム音楽ライブ」を企画し、サウンドクリエイターによる作品演奏とトークライブを行った。②はポピュラーエンターテインメント専攻・コースが高校生の出演者を募り、ステージで歌唱力を発揮するイベントを開催した。

●成果及び達成度

専攻・コース別に予定していたイベントは計画通りに終了し、本学の魅力を発信するよい機会となった。今年度新たに追加した①については、訪問した高校や楽器店、「ゲーム音楽ライブ」に参加した高校生に対し「ゲーム音楽」の魅力について発信できた。その結果として作曲デザイン・コースの志願者増加につながっている。②については「ポピュラーボーカル」に興味を持つ高校生に、歌唱力を発揮する機会を設けることにより、本学の周知を図った。

●今後の展望

各専攻・コースの充実した教育内容や指導教員、施設等の教育環境、在学生の状況を伝える重要な情報提供の機会となるよう来年度以降も継続して実施する。

【2】対社会事業

＜社会連携関連＞

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の成果の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等、さまざまな分野の団体と連携を結び、社会貢献活動を実施している。当センターの連携関係事業は、大きく分けて社会学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

・地域社会との連携

①豊中市が主催の「第7回豊中音楽コンクール」については昨年度のような延期もなく、感染拡大防止対策を講じた上で6月に予選、7月に本選を実施した。

豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市、豊中市教育委員会との共催で「第10回豊中こども音楽フェスティバル」

を、感染拡大防止対策を講じた上で滞りなく実施した。

②寝屋川市との包括連携協定に基づき、同市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

・公開講座

豊中市、高槻市、羽曳野市等、自治体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

①豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」

②高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」

③羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介

・依頼演奏

地方自治体・公共団体・公益法人・ボランティア団体・学校・企業・個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに、大学の広報活動の一翼を担う事業でもある。また近年は、在学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。今年度も新型コロナウイルス感染症による影響が続いていることもあり、申込件数が20件と少なかったが、昨年度と比べて増加した。依頼主と協力しながら感染防止対策を実施し、安全に在学生及び卒業生を派遣した。

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

ミュージカルを研究する団体『DAION ミュージカル研究会』会員が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施する。広く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカルを上演する際には、芸術面だけでなく、経済的な成功も目指し、本学の名声をも高めることにつなげる。上演に備え、講師を招いて DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等、収支バランスを考慮した事業展開を行っている。

●成果及び達成度

今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によりコンサートの開催を中止したが、ワークショップ、委嘱講師によるレッスンを行った。事業等の詳細は以下のとおり。

□DAION 座 夏のワークショップ（延べ参加人数：学生 19 人）

8月9日、8月26日、8月30日

□レッスン

4月～3月実施（2月・3月は実施なし）

DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるため講師を招きほぼ毎月実施

●今後の展望

来年度は、DAION 座自主公演を下記のとおり実施する。

公演名：DAION 座 ウィークエンドシアター

日 程：2023 年 12 月 10 日（日）

場 所：常翔ホール

ミュージッククリエーション専攻卒業作品発表会

●要旨

ミュージッククリエーション専攻卒業作品完成披露会「MUSIC CREATION AWARDS 2022」を、2023 年 2 月 11 日（土・祝）にミレニアムホールで開催した。「歌モノ」「インスト」「劇音楽」の中から、学生自身が卒業作品として選択し、制作した「セルフプロデュースアルバム」を披露した。

前年度に引き続き審査員長を作曲家・三枝成彰氏に依頼したほか、映画監督やゲーム会社、作家事務所等から審査員を招き、各賞を選出して表彰を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策として、入場は出演者の家族を含む招待者のみとし、対面と同時にライブ配信によるオンラインでのイベント公演を実施した。

●成果及び達成度

ミュージッククリエーション専攻4期生21人が「セルフプロデュースアルバム」を披露し、審査の上各賞の表彰を行った。また、表彰終了後、学生と審査員・外部ゲストとの交流会をA号館301教室で行い、親睦を深めた。

●今後の展望

次代を担う若き音楽クリエイターの存在と活躍を社会に広く発信し、卒業後の音楽活動とキャリア形成を後押しする。

キャリア支援センター東京ブランチ就職支援事業

●要旨

音楽・エンターテインメント業界に多くの人脈があり、就職指導のノウハウを持つ法人に、前年度から継続して業務を委託し、同法人の職員を東京ブランチ付きのスタッフとし、個別相談と学内セミナーを実施した。9月下旬からは専任事務職員1人を配属し、企業訪問等による情報収集体制を強化し、業界との関係構築を推進した。また、学生による音楽系企業見学ツアーを開催した。

●成果及び達成度

5月に業務委託先法人スタッフによる「音楽業界に入るための何でも相談セミナー」を開催した(参加学生:8人)。また、期間中に庄内キャンパスにて学生面談を実施した(利用学生:3人)。

11月及び3月に、1泊2日の「音楽系企業見学ツアー in 東京」を開催した(参加学生:19人、訪問したまたは講義を受けた企業:延べ11社)。

9月から3月まで、専任事務職員により首都圏の企業・業界関係者を訪問またはオフィスにて接応した(会談者数:139人)。また、期間中にオンラインにて学生相談を実施した(利用学生:3人・延べ8回)。

東京ブランチのSNSを開始し、在学生・関係者・社会に向けて情報発信を行った(各フォロワー数は、Instagram:122/Twitter:111/Facebookページ:62)。在学生・教職員向けのメールマガジンを創刊した(期間中の配信:20回。2023年3月末日時点のアドレス登録者数:86人)。

●今後の展望

各専攻・コース、特に大学ミュージッククリエーション専攻、ミュージックビジネス専攻、短大作曲デザイン・コース、新たに開設予定の短大音響照明コース、大学地域創生ミュージックマネジメント専攻等の学生について、卒業後の就職先として、首都圏に拠点を置く企業を選択肢に入れることは不可欠である。

東京ブランチは、継続して首都圏の音楽・エンターテインメント企業の情報収集及び関係構築に努めつつ、その情報を随時、在学生に提供することで、彼らの首都圏への興味を喚起するとともに距離感覚を縮め、安心して首都圏での就職活動・音楽活動に臨むことができるようサポートする。具体的には、「音楽系企業見学ツアー in 東京」の充実や、在京のキーパーソンと在学生をつなげるようなイベントの企画、インターンシップの協力企業や職場見学・職業体験機会の獲得などが挙げられる。また、在京の卒業生ネットワークも最大限活用する。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006年度から事業を展開している。通常であれば、豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を実施しているが、今年度も昨年度に引

き続き、新型コロナウイルス拡大防止対策のため、飛沫の恐れのない演奏編成に限定して、こども園 14 件、小学校 37 件、中学校 1 件）実施し、延べ 383 人の学生（卒業生・教員・演奏員を含む）を教育現場へ派遣した。昨年度と比して実施回数、実施日数、派遣者数ともに増加した。

●成果及び達成度

サウンドスクール実施に関する「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」に基づき、6 月から 3 月まで実施した。弦楽四重奏、打楽器アンサンブル、ピアノ独奏、邦楽アンサンブル（箏、三味線）に限定しての実施となった。コロナ禍で生の音楽を聴く機会が減少していたこどもたちに生きた演奏を届けられることができ、園児、児童、生徒、教職員ともに好評だった。実施したすべての学校園より、教育活動への効果について、前年度同様、良い評価を頂き、次年度も継続したいとの要望が多数あった。

●今後の展望

コロナ禍も収束しつつあり、サウンドスクールの教育効果を周知し、応募件数をコロナ禍以前の数に戻していく。また、中学校の吹奏楽指導などを積極的に取り組んでいく。

豊中こども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ・豊中市・豊中市教育委員会・大阪音楽大学が連携し、9 月下旬に実施する。内容は、コンテストで優秀な成績を取めた豊中市在住の中学生・高校生による独奏や、同市内で活躍する中学・高等学校吹奏楽部の演奏、同市内中学・高等学校を卒業し本学在学の学生の演奏を行い、音楽を通じてこどもたちの感性を育むことを目的に毎年実施している。

●成果及び達成度

本学と豊中市内中学・高等学校との連携の強化と、「音楽あふれるまち・とよなか」を市民の皆様々にアピールすることができた。また、来場者の多くがこども連れであり、たくさんのこども達が生の音に触れる機会となった。

●今後の展望

今後は吹奏楽に限らず、様々な音楽ジャンルを取り入れ、文化芸術活動に取り組むこどもたちの発表の場として、こどもたちの目標となる演奏会をめざし、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう運営する。

豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015 年度から豊中市と共催で、2019 年度より豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は 2019 年度より運営を委託されている。6 月 18 日（土）・19 日（日）に予選、7 月 3 日（日）にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を行った。部門は高校と大学・一般があり、それぞれにピアノ、声楽、管楽器、弦楽器の各部門を設け、定員は各 30 人、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々に依頼して行った。上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者（1 人）は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

コロナ禍ではあったが、高校の部 104 人、大学・一般の部 102 人という、多数の応募をいただいた。コンクールとしての知名度は着実に向上している。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2023 年 6 月 17 日（土）・18 日（日）に予選、7 月 2 日（日）に本選を開催す

ることが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとして、また、若き才能の持ち主達の登竜門として、地位を確立したい。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇ノ発生地足ラン」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を実に三度も受賞したのを始め、モービル音楽賞（現、ENEOS 音楽賞）の本賞や三菱 UFJ 信託音楽賞の本賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立 100 周年目に当たる 2015 年度に、「創立 100 周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言えるオペラ「ファルスタッフ」を上演し、これを契機にオペラハウス主催オペラ公演の在り方を見直し、2017 年度から井原広樹、栗國淳、岩田達宗の 3 名の客員教授を年替わりで演出に起用し、3 年にわたる「ディレクターズチョイス」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを決定した。2017 年度は井原広樹演出、牧村邦彦指揮で、モーツァルトの《偽の女庭師》を上演、2018 年度は栗國淳演出、森香織指揮でメノッティの《テレフォン》《泥棒とオールドミス》を上演、そして、同シリーズの掉尾を飾る 2019 年度は岩田達宗演出、牧村邦彦指揮でベッリーニの《カプレーティとモンテッキ》を上演し、いずれも高い評価を得た。2020 年度は、2014 年に上演して文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した「鬼娘恋首引」と「カーリユー・リヴァー」の 2 作品を井原広樹演出、牧村邦彦指揮でキャストや演出の一部に手を入れて上演する予定であったが、2020 年から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で中止となった。

その後もコロナ禍の影響が続き、環境的にも、経済的にも厳しい状況の中で主催オペラ公演は一旦休止を決定した。但し、オペラの灯をともし続ける重要性和使命を念頭に、セミステージ形式での実施も含めて検討し、その結果、昨年度は、オペラハウス管弦楽団定期演奏会のプログラムの中で新たな形でのコンサート・オペラとしてヴォルフ＝フェラーリの「スザンナの秘密」を井原広樹演出、牧村邦彦指揮で上演した。キャストも少なく舞台上の道具も簡易ではあったが大変見ごたえのある公演で好評を得ることができた。今年度は、関西初演となるハイドンのオペラ「無人島」を上演した。井原広樹の知恵を絞った演出、牧村邦彦によるオペラを知悉した熟練の棒で、本学出身の中堅歌手たちの魅力を存分に引き出し、セミステージの形式とは思えない舞台を作り上げることができた。今後も、この形式での実施の可能性を探り進めていく考えである。

一方、オペラハウスは教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途で活用している。大学主催演奏会として 14 公演（21 件）開催し、5,017 人が入場、また学生の自主公演として開催されている授業の延長にあるコンサート等を 12 公演開催し、2,884 人が入場した。さらにクラシック系の専攻で学ぶ学生は、卒業実技試験の際、この舞台で必ず演奏の機会を持つことになっており、今年度は 23 回に及ぶ卒業・修了演奏を実施し、1,541 人が入場した。

その他にも、附属幼稚園の公演を 1 回行い、752 人の入場者を得た。また、オープンキャンパス、入学式、卒業式などの事業が 9 件で 2,381 人の入場者があった。他に共催（協賛）事業が 4 件であった。これらの結果、年間催事総数は 63 件、総入場者数は 13,679 人、総稼働日数は 212 日にも及んでいる。

また付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に 4 件 7 回の依頼演奏を実施し、特に様々な団体のオペラ公演には欠かせない存在になっている。また、文化庁「文化芸術による子供の育成推進事業（巡回公演事業）」を担い、秋田、宮城、大阪、兵庫、滋賀、和歌山、高知、熊本の 1 府 7 県で巡回公演事業を実施し、ワークショップや演奏会を計 18 校 22 回開催した。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第 60 回定期演奏会

●要旨

前期は、管弦楽団単独のステージコンサートとして演奏会を実施した。

●成果及び達成度

昨年度の定期演奏会に引き続き、前半で演奏曲目に協奏曲を取り上げ、独奏者を大学院生の中からオーディションにより選抜された優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献するという目的を達成させることができた。また、演奏会全てをベートーヴェン作曲のプログラムにすることで統一感を持たせることができた。

●今後の展望

コアメンバーに主催演奏会でステージ演奏の機会を与え、より多くの曲目経験を積ませることでメジャーオーケストラの採用オーディションに合格できる実力を養成することや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませることを継続していく。また今後は、予算の許す範囲で大編成の曲目にも挑戦しアンサンブル能力の向上を目指す。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団第 61 回定期演奏会

●要旨

後期は、演奏会形式(セミステージ形式)のオペラとして定期演奏会を実施した。

●成果及び達成度

限られた予算枠内で、演奏会形式とは言えオペラ公演を実現し、なお且つオペラハウスのコンセプトでもある比較的上演機会の限られた作品を取り上げるという目標を達成することに成功した。また、芸術文化振興基金及び、公益財団法人 2 団体から助成金を得ることができた。

●今後の展望

学校法人主催のオペラ公演を正式事業として実施できるようになるまでは、通常のステージコンサートの予算枠内で実施するオペラハウス管弦楽団定期演奏会として後期に演奏会形式のオペラを開催する予定である。

●公的助成・民間助成について

当公演は、公益財団法人朝日新聞文化財団並びに公益財団法人三菱 UFJ 信託芸術文化財団より助成金を受けている。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラ制作団体等の外部団体からの依頼を受けて出張演奏を実施し、収益事業としている。また、学校法人の広報活動の役割も担っている。

●成果及び達成度

依頼演奏は、学校法人の広報活動の一端も担っている重要な業務との認識を持ち依頼主に対応している。2022 年度は、4 会場 6 公演を受託し公演を行った。どの公演においても主催者と新型コロナウイルス感染症対策において綿密な事前協議を重ね、検温・抗原検査・PCR 検査等を繰り返しながら万全の態勢で臨み、全公演滞りなく実施することができた。

●今後の展望

新型コロナウイルスの影響は徐々に減少傾向となってきたが、クラシック音楽業界を取り巻く経済的な環境はコロナ禍以前と比較して完全回復とは言えず引き続き厳しい状況である。楽団としてオペラ公演等において演奏の質をより高く維持することで一つでも多くの依頼演奏を受注できるよう努める。

文化庁巡回公演事業

●要旨

①「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」

全国の小学校・中学校において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としている。

②「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」

新型コロナウイルス感染症の影響下において、学校内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験・修得をする機会が多く失われているため、実演芸術等をはじめとする多様な文化芸術の鑑賞・体験が享受できる機会を提供することを目的としている。

●成果及び達成度

今年度は、①の「文化芸術による子供育成推進事業」で大編成オーケストラの A 区分 8 公演、小編成オーケストラの C 区分 6 公演を実施した。また、②の「子供のための文化芸術・鑑賞・体験再興事業」では、大編成の部で 6 公演、小編成の部で 2 公演を実施し、①と②を合わせて 22 公演を実施した。

●今後の展望

今後は、文化庁による予算配分の変更や申請団体の増加等が予想され、採択数の減少などが懸念されるため、より一層の演奏水準の向上に努めたい。

オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

大学主催オペラへの出演及び依頼演奏会への出張演奏を行う。

●成果及び達成度

2020 年度以降実質 3 年間以上自主公演、大学主催オペラへの出演及び依頼演奏等全ての演奏活動を実施していない。

●今後の展望

事実上 3 年間以上演奏活動を実施しておらず、またマネージャー等事務スタッフも選任されていないため名目上だけの団体となっている。登録メンバーの高齢化も進んでおり、今後合唱団として存続運営するのであれば再編成が必要と思われる。

【4】付属音楽院

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で運営を継続した。マスクやフェイスシールド、飛沫防止パネルを使用するなど、受講に際して制約のある状況下にあっても、多くの方が受講を継続してくださった。年度末には発表会を実施し、ホールで演奏できる喜びを感じてもらうことができた。

徐々にコロナ前に戻りつつある状況を考慮しながら、0 歳から入場可能なこどもの音楽会を 2 度開催した。約 700 席が満席となり音楽の必要性を再確認できる機会となった。また、マンツーマンレッスン受講生と進学コース受講生の中から合計 17 人が本学に入学した。音楽院が目的としている「全ての人に音楽を学ぶ楽しさを」・「本学入学者の獲得」に、コロナ禍でありながらも十分に貢献できた 1 年であったと考える。

進学コース充実、改革のための事業

●要旨

進学コースに在籍する受講生への特典（入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金の贈呈）を付与し、音楽・芸

術系大学を目指す受験生の育成を図る。

●成果及び達成度

進学コースは対面クラス 20 人、Web クラス 6 人が在籍し、そのうちの 9 人が 2023 年 4 月に本学に入学した。

入学お祝い金を支給（実技クラス：4 人、音楽基礎科目クラス：1 人、実技クラス・音楽基礎科目クラス両受講：3 人）、音楽院賞を贈呈（実技優秀賞：該当者無、実技奨励賞：2 人、音楽基礎科目優秀賞：該当者無）、特に優れた成績を収めた受講生に贈られる特別給付奨学金については該当者無しであった。

進学コースのカリキュラムを通じて音楽基礎科目の知識・能力を着実に身に付けようとする受講者の割合は多く、大学入学後の円滑な学修の開始につながっている。

●今後の展望

各学年 10 人、総勢 30 人の在籍者を目標に掲げ、入学前に十分な能力を身に付けてもらえるよう、カリキュラムも一層工夫し、見直していく。

キッズ・ジュニアコースの充実

●要旨

未来の音楽家を育成するため、ジュニア・オーケストラとザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団を新たに立ち上げ、2 年目に入った。

●成果及び達成度

合唱団は本学定期演奏会や外部演奏会（咲くやこの花コレクション／大阪市主催）に出演するなど活動の幅を広げた。第 2 回目のジュニア・オーケストラとの合同定期演奏会は好評を博した。

〔定期演奏会・ミュージックカーニバル（発表会）〕

- ・2023 年 2 月 26 日 ジュニア・オーケストラ&ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団 合同定期演奏会
- ・2023 年 3 月 19 日 キッズレッスン（ヴァイオリン・チェロ）、マンツーマンレッスン 発表会
- ・2023 年 3 月 21 日 キッズレッスン（ピアノ・マリンバ）、マンツーマンレッスン 発表会
- ・2023 年 3 月 25 日 キッズ・ジュニアコース（グループレッスン） 発表会

●今後の展望

依頼演奏や外部演奏会への積極的な出演を目標に掲げ、コンクールなども視野に入れて活動していく。

動画配信事業

●要旨

レッスンや演奏などを主とした動画を音楽院公式 You Tube へアップロードし、大学教員や音楽院の広報宣伝を図る。遠方や様々な事情の方に向けた有料ライブ配信（アーカイブ視聴可）を実施する。

●成果及び達成度

これまでに You Tube に 343 本の動画をアップロードした。チャンネル登録者は 3,641 人となっている。本学教員や音楽院講師による演奏や指導動画など、多様な角度から大阪音楽大学の広報活動を展開できたと考える。有料配信においては、全 3 回で平均 70 人の方の申し込みがあり、新たな事業展開を模索している。

●今後の展望

チャンネル登録者 5,000 人を目標とし、動画を主とした広報展開を試みる。有料配信においては、様々な専攻の大学教員と協力し現在のニーズにあったものを提供していく。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

本学の取り組みに関する効果的な情報発信を目指し、時代に合わせた各種媒体・機会の活用による広報展開を昨年度に引き続き行い、今年度は、Web 上での広報展開のさらなる強化を図った。

ホームページや SNS では、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。2023 年度に大学・短大に新設するシンガーソングライティングコース・クラス、2024 年度に短大に新設する音響照明コース、2024 年度に大学のミュージックコミュニケーション専攻をリニューアルし名称を変更する地域創生ミュージックマネジメント専攻の広報を中心に各専攻・コースの魅力、取り組みを Web 媒体、動画などで広くアピールした。

広告においては、ターゲットやエリアを絞った Web 広告も活用し、時代に合わせた広報展開を行った。

その他、広報誌を紙面から Web マガジンにリニューアルし、従来よりも幅広い層へのアプローチを行った。また、リーフレット・チラシなどの紙媒体、イベント出演、マスメディアへの掲出など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動について

●要旨

各専攻・コースの認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、建学の精神、教育理念を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

前年度に引き続き、広報媒体や宣伝機会ごとの特性に応じた多角的な情報発信に努めた。今年度は、さらに Web 上での広報展開に力を入れるべく、広報誌を Web マガジンに変更し、積極的に情報発信を行った。また、昨年度に引き続きニュースリリースを Web 上に配信するなど Web 媒体を積極的に活用し、ホームページへの流入数を伸ばすことができた。今年度開設の大学ミュージックビジネス専攻の広報の効果は、昨年に引き続き、幅広い層からの反応を得ることができ、歴史と伝統を尊重しながらも、時代の変化に対応する本学の姿を広く社会に印象付けることができた。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用して、取り組み及び各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来 100 年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、学生募集にもつなげていくものとする。

【2】施設・設備

計画的に維持保全を実施することにより、施設の省エネ化、老朽化対策を進めた。また、近年教育現場に求められる ICT 環境を整えた教室を整備する等、新たな教育環境の充実に努めた。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

既存施設設備に対する経年劣化対策を順次行うことで施設設備の維持保全を図った。また、一部施設の使用用途を見直し全面的にリニューアルすることで ICT に対応した教室を拡充する等、新たな需要に応じた教育環境を整備した。

●成果及び達成度

以下の施設設備における改修・整備工事を実施した。

- ・ A 号館受水槽の改修
- ・ F 号館照明の LED 化

- ・ F 号館冷媒配管更新工事
- ・ J 号館屋上防水工事
- ・ K 号館 3 階フロアを教室への全面リニューアル
- ・ L 号館吸収式冷温水機の更新
- ・ L 号館高圧ケーブルの更新
- ・ O 号館防災設備の更新
- ・ O 号館非常用放送設備の更新
- ・ O 号館高圧ケーブルの更新
- ・ P 号館天井耐震補強工事
- ・ P 号館全熱交換器の更新
- ・ 幼稚園照明の LED 化
- ・ 幼稚園園舎屋上防水工事
- ・ 幼稚園園庭廊下マットの更新

●今後の展望

中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ、施設設備の維持保全及び新たな需要を見据えた教育環境の整備・充実に努める。

【3】法人の運営

中期計画 2 年目となる今年度も計画に沿った各事業の展開・推進を図った。なかでも財政収支改善策の中核となる学生の安定的な確保については、2021 年度に引き続き、最重要課題として取り組んだ。限られた財源に関しては、事業運営コストの見直しと、既存専攻・コースの充実並びに新専攻・新コースによる新たな志願者層の開拓に資するよう経営資源の集中を行った。

開設初年度となるミュージックビジネス専攻については、当初の見込みを大きく上回る学生数を確保したことから、教育環境の整備計画を今年度に前倒し、教室改修工事等を行った。2023 年度に改編するポピュラーエンターテインメント専攻・コースに関しては、早期に教員体制を整え、今年度より既存授業の一部科目に配置を行い、改編に向けたスムーズな移行が可能となるよう準備した。

また、2024 年度に改称する地域創生ミュージックマネジメント専攻（ミュージックコミュニケーション専攻）及び新規開設する音響照明コースについても同様、十分な準備期間を設けるため、今年度より教員を確保し、特別講義や入試活動を通じて、計画的に社会へ発信するなど行った。当面、これら事業へは人件費・広報費・教育環境整備費等、先行投資が必要なため、単年度における収支の改善は見込めないが、5 ヵ年という中期計画の完遂には重要な年度となった。

今年度は理事会を 4 回、評議員会を 3 回開催した。理事会において決定した学校法人の業務及び理事長の職務を円滑に遂行するために、常任理事会を 17 回開催し、延べ 116 件の議題を審議した。役員及び役職者の意思疎通と連絡調整を目的とする執行部連絡協議会を 4 回開催した。

今年度の教職員の総数は 653 人（平均年齢 48.8 歳）であった。内訳は、専任教員 58 人〔大学 40 人・短大 18 人（平均年齢 54.4 歳）、付属音楽幼稚園教諭 13 人（平均年齢 33.6 歳）〕、専任職員 73 人（平均年齢 42.0 歳）、非常勤教員 478 人（平均年齢 49.7 歳）、非常勤職員 31 人（平均年齢 47.2 歳）であった。年度中に 66 人（専任教員 3 人、専任教諭 3 人、専任職員 8 人、非常勤教員 46 人、非常勤職員 6 人）が退職した。

専攻・コース改編による将来構想

●要旨

大学の専攻、短大のコースにおいて、2024年度に次の改編を行うことを決定し、各担当教員と関連する部門が連携をとり必要な準備に着手した。

- ・短期大学部音楽科に新コース「音響照明コース」を開設
- ・大学音楽学部ミュージックコミュニケーション専攻を「地域創生ミュージックマネジメント専攻」に改称の上、カリキュラム内容を改定

●成果及び達成度

カリキュラム構築、教員配置、教室の候補選定など改編に向けた具体的な検討に着手した。また、高校生への周知のための広報物制作をはじめ、イベントや宣伝など広報展開について計画、展開を開始した。

●今後の展望

音楽に関連する新しい領域の学びを適切に展開し、これからの音楽大学の教育の在り方を確立していく。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
固定資産	16,814,352	16,261,223	15,137,731	14,684,253	14,240,018
流動資産	605,998	608,269	1,213,610	1,111,017	905,064
資産の部合計	17,420,351	16,869,492	16,351,342	15,795,270	15,145,082
固定負債	2,592,928	2,436,645	2,278,230	2,111,718	1,988,794
流動負債	255,918	257,995	254,897	279,077	255,146
負債の部合計	2,848,847	2,694,640	2,533,127	2,390,795	2,243,940
基本金	17,880,179	17,974,228	17,939,597	18,062,494	18,079,606
繰越収支差額	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	-4,658,019	-5,178,464
純資産の部合計	14,571,504	14,174,852	13,818,215	13,404,475	12,901,142
負債及び純資産の部合計	17,420,351	16,869,492	16,351,342	15,795,270	15,145,082

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
固定資産構成 比率	固定資産					
	総資産	96.5	96.4	92.6	93.0	94.0
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。						
流動比率	流動資産					
	流動負債	236.8	235.8	476.1	398.1	354.7
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。						
総負債比率	総負債					
	総資産	16.4	16.0	15.5	15.1	14.8
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。						
前受金保有率	現金預金					
	前受金	625.2	573.3	1370.0	1052.4	876.6
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。						
特定資産構成 比率	特定資産					
	総資産	28.5	27.2	25.7	25.1	25.0
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況进行评估する指標。						

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学生生徒等納付金収入	2,104,847	2,182,814	2,150,453	2,140,928	2,173,833
手数料収入	16,791	17,166	16,205	17,763	18,374
寄付金収入	11,497	11,000	110	0	0
補助金収入	302,423	206,354	220,713	251,257	300,826
資産売却収入	233,734	103,623	479,927	105,164	120,954
付随事業・収益事業収入	170,519	170,080	111,234	140,642	165,522
受取利息・配当金収入	140,264	108,793	91,696	83,904	104,089
雑収入	207,975	237,479	171,009	218,015	203,008
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	84,880	89,060	82,660	87,270	93,360
その他の収入	854,411	2,178,801	1,104,863	1,234,966	916,409
資金収入調整勘定	-159,407	-177,209	-157,170	-162,697	-164,229
前年度繰越支払資金	656,320	530,632	510,584	1,132,455	918,470
収入の部合計	4,624,252	5,658,593	4,782,283	5,249,667	4,850,616

支出の部	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
人件費支出	1,834,563	1,836,605	1,728,513	1,863,241	1,904,684
教育研究経費支出	674,011	731,694	786,615	817,861	825,498
管理経費支出	334,156	332,065	297,659	283,895	299,930
借入金等利息支出	3,472	6,227	5,701	5,249	4,788
借入金等返済支出	98,220	100,720	98,220	98,220	98,220
施設関係支出	290,847	116,463	85,109	144,612	176,948
設備関係支出	92,934	100,501	42,677	89,237	45,994
資産運用支出	292,833	1,416,222	112,990	511,080	164,733
その他の支出	509,511	549,575	533,523	574,155	545,036
資金支出調整勘定	-36,927	-42,062	-41,179	-56,353	-33,643
翌年度繰越支払資金	530,632	510,584	1,132,455	918,470	818,428
支出の部合計	4,624,252	5,658,593	4,782,283	5,249,667	4,850,616

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,779,461	2,824,371	2,641,403	2,760,660	2,860,597
教育活動資金支出計	2,842,730	2,900,364	2,812,786	2,964,997	3,030,112
差引	-63,269	-75,993	-171,383	-204,337	-169,515
調整勘定等	-58,322	-12,912	45,983	-22,934	-12,899
教育活動資金収支差額	-121,591	-88,904	-125,400	-227,271	-182,414
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	201,088	520,080	141,343	245,109	255,723
施設整備等活動資金支出計	383,782	566,939	227,786	333,849	273,177
差引	-182,694	-46,859	-86,443	-88,740	-17,454
調整勘定等	34,900	0	-35,060	28,871	0
施設整備等活動資金収支差額	-147,794	-46,859	-121,503	-59,869	-17,454
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	-269,385	-135,763	-246,903	-287,140	-199,868
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,000,671	1,804,382	1,471,133	1,119,011	806,704
その他の活動資金支出計	856,704	1,688,215	601,933	1,046,282	706,878
差引	143,967	116,167	869,200	72,729	99,826
調整勘定等	-270	-451	-426	426	0
その他の活動資金収支差額	143,697	115,716	868,774	73,155	99,826
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	-125,688	-20,047	621,871	-213,985	-100,042
前年度繰越支払資金	656,320	530,632	510,584	1,132,455	918,470
翌年度繰越支払資金	530,632	510,584	1,132,455	918,470	818,428

ウ) 財務比率の経年比較

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教育活動資金	教育活動資金収支差額				
収支差額比率	-4.4	-3.1	-4.7	-8.2	-6.4
教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。					

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

	科目	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,104,847	2,182,814	2,150,453	2,140,928	2,173,833
	手数料	16,791	17,166	16,205	17,763	18,374
	寄付金	11,497	11,000	110	1,666	0
	経常費等補助金	267,832	205,832	194,078	243,312	299,859
	付随事業収入	170,519	170,080	111,234	140,642	165,522
	雑収入	207,975	237,479	169,323	218,015	203,008
	教育活動収入計	2,779,461	2,824,371	2,641,403	2,762,326	2,860,596
	事業活動支出の部					
	人件費	1,751,860	1,778,542	1,668,317	1,794,949	1,877,479
	教育研究経費	972,436	1,039,590	1,095,964	1,128,192	1,143,866
	管理経費	357,331	362,154	334,801	319,385	336,028
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	3,081,627	3,180,286	3,099,082	3,242,526	3,357,374
	教育活動収支差額	-302,166	-355,915	-457,679	-480,200	-496,777
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	140,264	108,794	91,696	83,904	104,089
	その他の教育活動外収入	0	0	1,686	0	0
	教育活動外収入計	140,264	108,794	93,381	83,904	104,089
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	3,472	6,227	5,701	5,249	4,788
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	3,472	6,227	5,701	5,249	4,788
	教育活動外収支差額	136,792	102,567	87,680	78,655	99,301
	経常収支差額	-165,374	-253,348	-369,999	-401,545	-397,476
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	124,278	37,210	60,229	4,657	5,194
	その他の特別収入	38,367	36,374	34,254	10,894	3,016
	特別収入計	162,645	73,584	94,483	15,551	8,210
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	544,552	216,887	80,694	27,745	114,066
	その他の特別支出	0	0	427	0	0
	特別支出計	544,552	216,887	81,121	27,745	114,066
	特別収支差額	-381,907	-143,303	13,361	-12,194	-105,856
	基本金組入前当年度収支差額	-547,282	-396,651	-356,638	-413,739	-503,333
	基本金組入額合計	-98,512	-94,049	0	-122,897	-17,112
	当年度収支差額	-645,794	-490,701	-356,638	-536,636	-520,445

前年度繰越収支差額	-2,662,882	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	-4,658,019
基本金取崩額	0	0	34,631	0	0
翌年度繰越収支差額	-3,308,675	-3,799,376	-4,121,383	-4,658,019	-5,178,464
(参考)					
事業活動収入計	3,082,369	3,006,749	2,829,267	2,861,781	2,972,895
事業活動支出計	3,629,651	3,403,400	3,185,905	3,275,520	3,476,228

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	72.1	74.4	78.6	75.2	73.3
学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の帰属収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。						
人件費比率	人件費 経常収入	60.0	60.6	61.0	63.1	63.3
人件費の経常収入に占める割合。						
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	33.3	35.4	40.1	39.6	38.6
教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には消耗品費、光熱水費、旅費交通費、委託費、修繕費等の各種支出に加え教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。						
管理経費比率	管理経費 経常収入	12.2	12.3	12.2	11.2	11.3
経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。						
補助金比率	補助金 事業活動収入	9.8	6.9	7.8	8.8	10.1
国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。						
補助金: 経常費等補助金＋施設設備補助金						

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は 4,850,616 千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,173,833 千円、補助金収入 300,826 千円、付随事業・収益事業収入 165,522 千円、前受金収入 93,360 千円である。資金支出の合計は 4,850,616 千円で、主な科目の内訳は、人件費支出 1,904,684 千円、教育研究経費支出 825,498 千円、管理経費支出 299,930 千円、資産運用支出 164,733 千円である。2022 年度の翌年度繰越支払資金は 818,428 千円となり、前年度繰越支払資金より 100,042 千円減少した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,860,596 千円であり、学生生徒等納付金比率は 73.3 パーセントとなる。教育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価

償却額を含む）等の合計で、3,357,374 千円であり、人件費比率は 63.3 パーセントとなる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 496,777 千円の支出超過、教育活動外収支差額は 99,301 千円の収入超過、経常収支差額は 397,476 千円の支出超過となった。特別収支差額は 105,856 千円の支出超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 503,333 千円の支出超過となった。基本金組入額は 17,112 千円となり、前年度までの支出超過累積額 4,658,019 千円を差し引きし、翌年度繰越収支差額は 5,178,464 千円の支出超過となった。

貸借対照表上の 2023 年 3 月 31 日における財政状態は、資産 15,145 百万円、負債 2,243 百万円となっている。

（詳細については 2022 年度決算説明をご参照ください。）

▼2022年度 法人の動き

日付	内容	場所
<A. 教育・研究事業>		
2022年4月1日	新入生保護者対象キャリア支援ガイダンス	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年4月5日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
2022年4月5日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
2022年4月5日	音楽幼稚園 第55回入園式	音楽幼稚園
2022年4月7日	庄内小学校音楽隊指導ボランティア募集説明会	B号館205教室
2022年4月13日	カワイ音楽教室 講師採用説明会	A号館305教室
2022年4月15日	教員採用試験説明会【大阪市】	キャリア支援センター
2022年4月16日	教員採用試験説明会【神戸市】[他 4/30]	オンライン開催
2022年4月18日	教員採用試験説明会【堺市】	オンライン開催
2022年4月20日	教員採用試験説明会【兵庫県】	キャリア支援センター
2022年4月25日	教授会①	会議室
2022年4月26日	陸上自衛隊音楽隊採用説明会	O号館202教室
2022年4月26日	大学3年生対象 進路ガイダンス	オンデマンド配信
2022年4月27日	神戸市 消防音楽隊採用説明会	O号館103教室
2022年4月30日	GW企画「センパイに聞く！学校現場のICTはコレ」卒業生を迎えて	オンライン開催
2022年5月9日	教員採用試験説明会【奈良県】	オンライン開催
2022年5月10日	堺市消防音楽隊説明会	O号館103教室
2022年5月11日	「今から間に合う！就活リスタート講座」(ミュージカリ主催)	オンライン開催
2022年5月16日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)①「前期 就職スタートアップ」 (リクナビ主催)	B号館206教室
2022年5月17日	韓国語講座 [他 5/24、31、6/7、14、21、28、7/5、12、19] (計10回)	B号館207教室
2022年5月19日	キャリアトーク(先輩と話そう)① 音楽教室講師編	キャリア支援センター
2022年5月20日	第1回ミレニアムピアノコンサート [他 第2回6/14、第3回7/14、第4回9/16、第5回10/7、第6回11/7、第7回12/7]	ミレニアムホール
2022年5月23日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)②「SPI性格検査受験会」(リクナビ主催)	F号館212教室
2022年5月23日	教授会②	会議室
2022年5月24日	第71回ミレニアム・スチューデント・コンサート第1夜 [他 第71回第2夜5/25、第72回第1夜6/15、第2夜6/16]	ミレニアムホール
2022年5月25日	合同会社ユーエスジェイ エンタテインナー採用説明会	K号館606教室
2022年5月25日	「クリエイティブで街と地域を変えていく、音楽の力で街と地域を変えてみる」	A号館414教室
2022年5月26日	福川伸陽氏 ホルン特別講義	O号館101教室
2022年5月27日	ヤマハミュージックレッスン セミナー (※コラボレート・スタディ【福栄教員】内 他専攻生聴講可)	K号館507教室
2022年5月30日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)③「業界研究セミナー」(マイナビ主催)	B号館206教室
2022年5月31日	東京ブランチセミナー	B号館206教室
2022年6月2日	ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏グレード5級取得準備講座 [他 6/9、16、23] (計4回)	B号館205教室
2022年6月10日	キャリアトーク(先輩と話そう)② 企業編	キャリア支援センター
2022年6月12日	藤原功次郎トロンボーンリサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年6月13日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)④「面接対策セミナー」(あさがく主催)	B号館206教室
2022年6月15日	AILI氏 ポピュラー特別講義 ①	K号館507教室

▼2022年度 法人の動き

日付	内容	場所
2022年6月18日	教員採用試験 面接対策講座	F号館215教室
2022年6月20日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)《特別編》「エントリーシート対策講座」(パソナ主催)	B号館206教室
2022年6月27日	教授会③	会議室
2022年6月29日	鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義	K号館404教室
2022年7月10日	大阪音楽大学吹奏楽団サマー・コンサート2022	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年7月11日	高槻市教育委員会による講師採用説明会	キャリア支援センター
2022年7月11日	教員採用試験 実技・面接対策講座(アルトリコーダー、ピアノ弾き歌い、模擬授業) [他 7/13、14、8/2、4、8、9、10、17、23、29、9/1、28、10/5、7](計15日間)	B号館104、F号館110教室 他
2022年7月11日	菊本和昭氏 トランペット特別講義	O号館201教室
2022年7月12日	陸上自衛隊音楽隊採用説明会	キャリア支援センター
2022年7月14日	大阪府警察音楽隊説明会	キャリア支援センター
2022年7月15日	And Vision主催 音楽留学セミナー	オンライン開催
2022年7月18日	キャリアトーク(先輩と話そう)③ 教員編	キャリア支援センター
2022年7月18日	教授会④	会議室
2022年7月20日	教員採用試験対策ガイダンス(東京アカデミー)	F号館215教室
2022年7月22日	大阪音楽大学管弦楽団サマー・コンサート2022	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年7月25日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館303教室
2022年7月27日	ミルウォーキー交響楽団首席トロンボーン奏者 神田めぐみ氏特別講義	O号館101教室
2022年8月1日	佐美秀俊特任准教授 finale特別講義	A号館301教室
2022年8月2日	佐美秀俊特任准教授 finale特別講義	A号館301教室
2022年8月24日	キャリア支援センター主催「SHOWCASE ショーケース」	K号館606教室
2022年9月8日	ピエール・モンティ氏 作曲特別講義	P号館107教室
2022年9月9日	ピエール・モンティ氏 現代音楽演習 特別講義	P号館107教室
2022年9月9日	外園祥一郎氏 ユーフォニアム特別講義	O号館101教室
2022年9月12日	短大1年生対象 進路ガイダンス	オンデマンド配信
2022年9月12日	ピエール・モンティ氏 現代音楽演習 特別講義[他 9/13]	P号館107教室
2022年9月13日	保育士資格試験対策講座ガイダンス	B号館205教室
2022年9月15日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B号館205教室
2022年9月17日	カワイピアノグレード6級 学内認定特別講習	F号館109教室
2022年9月26日	教授会⑤	会議室
2022年9月27日	保育士資格試験対策講座 [他 10/4、11、18、25、11/1、8、15、22、12/6、13、1/10、17、24、2/21*、28*](計16回)	B号館206教室
2022年9月28日	キャリアトーク(先輩と話そう)④ 俳優編	キャリア支援センター
2022年10月4日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑤「後期 就職スタートアップ」(リクナビ主催)	A号館305教室
2022年10月5日	音楽教室起業セミナー ～教えるを仕事にするために～	B号館206教室
2022年10月6日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座 [他 10/13、20、27、11/10、17、24](計7回)	B号館205教室
2022年10月9日	音楽幼稚園 第56回運動会	音楽幼稚園
2022年10月10日	平田オリザ客員教授 「アート×地域創生」特別講義	ミレニアムホール
2022年10月11日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑥「SPI性格検査受験会」(リクナビ主催)	F号館212教室

▼2022年度 法人の動き

日付	内容	場所
2022年10月13日	ヴォルフガング・ヴィブフラー氏 ホルン特別講義	O号館101教室
2022年10月16日	岩見玲奈マリンバリサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年10月18日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑦「業界研究」(マイナビ主催)	A号館305教室
2022年10月19日	第73回ミレニアム・スチューデント・コンサート第1夜 [他 第73回第2夜10/21、第74回第1夜11/14、第2夜11/16]	ミレニアムホール
2022年10月21日	第42回(春期)インターンシップ説明会	B号館101教室
2022年10月22日	パスカル・モラゲス氏 公開レッスン	O号館101教室
2022年10月25日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑧「面接対策」(あさがく主催)	B号館206教室
2022年10月25日	松位 浩 客員教授 声楽特別講義	K号館603教室
2022年10月26日	パソナ音楽島-Music Island 会社説明会	オンライン開催
2022年10月27日	江戸聖一郎講師 フルード(バロック音楽)特別講義	O号館202教室
2022年10月28日	ヤマハミュージックレッスン セミナー (※コラボレート・スタディ授業内 他専攻生聴講可)	K号館507教室
2022年10月29日	キャリア支援(進路・就職)に関する保護者対象 説明会・懇談会	F号館215教室
2022年10月31日	豊中市教育委員会による講師登録説明会	キャリア支援センター
2022年10月31日	教授会⑥	会議室
2022年11月4日	アレクサンダー・コプリン氏 ピアノ特別講義 [他 11/7]	F号館434教室
2022年11月9日	AILI氏 ポピュラー特別講義②	K号館507教室
2022年11月11日	求人紹介フェア&就職個別相談会 (新卒エージェントdoda主催)	キャリア支援センター
2022年11月11日	第34回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年11月15日	キャリアトーク(先輩と話そう)⑤ 企業編	キャリア支援センター
2022年11月16日	「バロック時代の音楽・ダンス・オペラ」特別講義	F号館434教室
2022年11月16日	鈴木央紹特任准教授 ジャズ特別講義	K号館401教室
2022年11月18日	第45回邦楽演奏会	ミレニアムホール
2022年11月21日	教授会⑦	会議室
2022年11月22日	三木楽器会社説明会(兼 音楽教室講師採用説明会)	B号館101教室
2022年11月22日	大阪音楽大学大学院定期演奏会2022	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年11月23日	トーマス・インデアミュレ氏 公開レッスン	O号館201教室
2022年11月26日	関西学院大学・宝塚音楽学校・大阪音楽大学ドリームコーラスコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年11月29日	第1回 音楽系企業 見学ツアーin東京 [他 11/30] (計2日間)	東京ブランチ他
2022年12月3日	音楽幼稚園 作品展「キッズミュージアム」	音楽幼稚園
2022年12月10日	大阪音楽大学第65回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
2022年12月12日	教員採用試験説明会【豊能地区】	キャリア支援センター
2022年12月14日	キャリアトーク(先輩と話そう)⑥ 進路決定&内定者編	キャリア支援センター
2022年12月15日	教員採用試験説明会【堺市】	キャリア支援センター
2022年12月19日	教授会⑧	会議室
2022年12月20日	教員採用試験説明会【大阪市】	キャリア支援センター
2022年12月20日	イリーナ・メジューエワ客員教授 ピアノ特別レッスン	F号館112教室
2022年12月21日	教員採用試験説明会【兵庫県】	キャリア支援センター
2022年12月22日	村上健 氏 ジャケットデザイン特別講義	A号館301教室

▼2022年度 法人の動き

日付	内容	場所
2022年12月23日	教員採用試験説明会【大阪府】	キャリア支援センター
2022年12月23日	綿貫正顕講師 ギター・チューンナップ特別講義	A号館301教室
2022年12月23日	第2回NEXT DESIGN ～作曲デザイン・コース・コンサート～	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年1月11日	神戸市職員(クリエイティブ枠)採用説明会	D号館101教室
2023年1月18日	ヤマハ音楽教室講師採用説明会《2024年度募集》	A号館305教室
2023年1月18日	エマニュエル・シュトロッセ氏 ピアノ特別講義 [他 1/19]	F号館510教室
2023年1月22日	大阪音楽大学第31回電子オルガン・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年1月23日	教授会⑨	会議室
2023年2月8日	就活メイク講座	F号館215教室
2023年2月8日	証明写真撮影会	ばうぜ特別室
2023年2月10日	And Vision主催 音楽留学セミナー	オンライン開催
2023年2月11日	第34回大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」第1日 [他 第2日 2/12]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年2月13日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑨「就活直前総まとめ」(リクナビ主催)	B号館101教室
2023年2月15日	教職支援室 春休み勉強会「教員採用試験合格者の体験談を聞こう！」	F号館215教室
2023年2月15日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2023年2月17日	株式会社SNK サウンドクリエイター採用説明会	オンライン開催
2023年2月18日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ポピュラー・ミュージック・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年2月20日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑩「模擬面接講座(集団面接)」(マイナビ主催)	B号館101教室
2023年2月20日	教授会⑩	会議室
2023年2月22日	【企業就職志望者対象】MIRAIセミナー(就職対策)⑪「模擬面接講座(グループディスカッション)」(あさがく主催)	B号館101教室
2023年2月25日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年2月27日	Illustrator & photoshop 体験講座	F号館213教室
2023年2月27日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第20回ザ・ストリング・コンサート	常翔ホール
2023年3月2日	第2回 音楽系企業 見学ツアーin東京 [他 3/3] (計2日間)	東京ブランチ他
2023年3月4日	大阪音楽大学第54回吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
2023年3月7日	教員採用試験 筆記試験対策 教職教養対策講座 [他 3/8,9] (3日間、計7回)	B号館102教室
2023年3月7日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	A号館303教室
2023年3月11日	大阪音楽大学短期大学部ミュージカル・コース DAIONミュージカル第12回公演①② [他 ③④3/12、⑤3/13]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年3月13日	教職支援室 春休み勉強会「特別支援学校 教員免許取得者の体験談を聞こう！」	F号館215教室
2023年3月14日	教職STUDY!!「教採の邦楽についてみんなで学ぼう」	F号館110教室
2023年3月15日	教員採用試験対策 グループ面接演習	B号館102教室
2023年3月15日	2022年度卒業演奏会(大阪音楽大学短期大学部)	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年3月16日	2022年度卒業演奏会(大阪音楽大学・第1日) [他 第2日 3/17]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年3月18日	音楽幼稚園 第56回卒園式	音楽幼稚園
2023年3月19日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2023年3月22日	教員採用試験対策 実技対策講座(ピアノ弾き歌い)	F号館215教室
2023年3月23日	神戸市立学校 学生スクールサポーター説明会	キャリア支援センター
2023年3月27日	教授会⑪	会議室

▼2022年度 法人の動き

日付	内容	場所
<B. 社会連携事業>		
2022年4月9日	常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト 「常翔ロビー・コンサート」[他 5/14、6/11、7/9、8/6、9/10、10/8、12/24、1/14、2/25]	常翔ホール・ギャラリー
2022年6月25日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第60回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年6月28日	豊中市「サウンドスクール事業」豊中市立庄内小学校 [他 6月～3月まで、こども園14件、小学校37件、中学校1件]	豊中市内こども園、小学校・中学校
2022年8月22日	大阪成蹊学園・大阪音楽大学 連携協定事業[8/23他]	大阪成蹊女子高校大阪音楽大学
2022年10月2日	第10回豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年10月21日	けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」 [他 11/4、11/11、11/25]	高槻市生涯学習センター
2022年10月23日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第61回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年10月30日	第7回豊中音楽コンクール受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2022年12月1日	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅」[他 12/8]	豊中市立中央公民館
<C. 法人組織運営事業>		
2022年5月26日	第1回理事会	会議室
2022年5月27日	第1回評議員会	会議室
2022年6月30日	第2回理事会	会議室
2022年12月1日	第2回評議員会	会議室
2022年12月2日	第3回理事会	会議室
2023年3月22日	第3回評議員会	会議室
2023年3月23日	第4回理事会	会議室